



TITLE:

諸學校學生入學年齡ニ關スル統計

AUTHOR(S):

鈴木, 文太郎

CITATION:

鈴木, 文太郎. 諸學校學生入學年齡ニ關スル統計. 經濟論叢 1916, 2(1): 126-132

ISSUE DATE:

1916-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/126940>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第二卷 第一號

論說

●收益遞減法則ノ發見及ビ改造

●米價ノ騰落ト其調節ニ就テ(二完)

研究

●近代都市ノ土地買收政策

●穀倉證券論

●本邦出生率増加ノ原因(三)

●本多利明ノ經濟說(二)

雜錄

●經濟雜話(二)

●米國ノ經濟の繁榮

●戰爭利得稅新法

●米歐爲替ト貿易

●諸學校學生入學年齡ニ關スル統計

●最近本邦鐵業ノ發達ニ就テ

●最近ノ金融問題(二完)

●萊府大學ノ經濟演習

●米國ニ於ケル外來白人ノ母語

法學博士 河上肇

法學博士 戸田海市

法學博士 神戸正雄

助教授 河田嗣郎

講師 高田保馬

法學上 本庄榮治郎

法學博士 田島錦治

法學博士 神戸正雄

法學博士 小川郷太郎

助教授 河田嗣郎

醫學博士 鈴木文太郎

醫學博士 齋藤大吉

工學博士 谷村一太郎

トクトル 西彦太郎

法學博士 河上肇

諸學校學生入學年齡ニ關

スル統計

醫學博士 鈴木文太郎

京都帝國大學々友會誌第十二號中吾人ハ一ツノ希望トシテ大學々生諸君ニ關スル統計調査ノ意アルコトヲ告白セリ爾來未タ其意ヲ果ササリシニ過般來學制問題喧シキヤ我解剖學教授鈴木博士ハ昨年十月中「學事施設ニ關スル私見」ヲ印刷ニ付シ一部ノ人ニ配賦セラレタリ吾人モ亦其惠贈ニ預リシ儘之ヲ繕ケルニ吾人ノ期待セルカ如キ統計の研究ノ一端ヲ掲ケテ立

論ノ材料ニ供セラレタルコトヲ知レリ吾人ハ必スシモ學制ニ關スル博士ノ主張ニ對シ一々賛成ヲ表スル者ニ非ス又平均中數ニツキ說カルル點ニ關シ說ナキニ非スト雖モ實證ノ基礎ニ於テ立論シ又統計的研究ヲ緻密ナラシメントシテ立タレシ態度眞面目ナル點ニツキテハ敬服ノ外ナキヲ以テ特ニ博士ニ請ヒテ其研究材料ヲ本誌上ニ轉載スルコトセリ又文中博士ニ請リテ字句ヲ改メタルモノアリ又挿入圖表ニツキテハ特ニ博士ニ乞ヒテ原表四ヲ得タリト雖モ印刷及便覽ノ便宜ニ鑑ミ安リニ一圖表内ニ縮約(表中附記羅馬數字ⅠⅡ等ハ博士ノ第一表第二表等ヲ表ハス)セリ讀者之ヲ諒セヨ(財部靜治識)

學制改革ノ一トシテ小、中學校及ビ高等學校ヲ通ジテ學修年限ノ短縮ヲ圖ラントノ說アレドモ、コハ十分考究ノ餘地アルモノト信ズ、大學一部ノ意向モ亦同ジキガ如シ、就中醫科大學ノ如キハ學修年限ハ四年ニシテ他ニ比シ一ケ年長ク卒業後ト雖モ多クハ一二年ハ猶ホ學校ニ留マリ、實地練習ヲ要シ、間接直接ニ年限延長スルヲ以テ、學校系統ヲ通ジ、年限短縮ヲ圖ルハ一層切實ナルモノトス。

今又年限短縮ヲ企テシニハ、現下學制々度ノ下ニテ如何ナル原因、如何ナル場所ニ於テ延長ヲ餘義ナクスルカヲ探究シ、以テ其ノ障礙ノ解除

ニ努ムルヲ正當トス、是レニハ先ヅ修學中通過
スル諸學校ニ於ケル入學者ノ年齡ヲ詳細ニ調査
スルノ要アルモ、今文部省ノ調査書ヲ見ルニ、
單ニ平均年齡及ビ最長最少年齡ヲ示スノミニ
テ、吾人ノ所要ニハ眞ニ不十分ナリ、又同一統計
中ニ在ル計算法必シモ同一方法ニ成ラズ、從テ
眞ノ比較ハ文部省ノ統計ニテハ全ク不可能ト謂
ハザルベカラズ、菊池氏ナドハ專ラ此ノ統計表
ニ準據セラレ居ルガ如シ、元來平均中數ハ其原
數ナル Variant ヲ示スニ由リ、始メテ其ノ意義
ヲ解スルモノニテ、例之一、三、四、六、七、九ノう
ありあんどヨリ成ル和ハ三十(平均數五)ニテ、
二、四、五、七、八ノ和モ亦三十(平均數五)ナ
リ、サレド兩者ノ數列ハ決シテ同一ナラズ、然ル
ニ兩者ヲ同ジク只平均數五ノミニテ表示セバ、
全ク其ノ差別ヲ沒却スル譯ナリ、此ノ如ク編成
セル統計表ヲ以テハ、實ニ何等比較ヲ爲ス能ハ
ズ、然ルニ文部省ノ調査書ニヨレハ大事ノうあ
りあんどノ性質ヲ知ルニ由ナク、云ハバ正味ヲ
捨テ「ソツブ」殼ヲ掲グルト一樣ノ次第ナリ、去

リテ予自ラ手ヲ下ダシ全國ニ亘ル諸學校ノ統
計表ヲヤリ直スコトモ不可能デアル、予ハ勿論
Standard deviation ナドノ計算ハ其道ノ學者ニ委
セ置クモ、文部省ナドデハ學文上ノ事ハオ手内
ト云フ譯ニテ多少模範的ニ役ニ立ツ統計表ヲ編
成シテ欲シキモノナリ、又教育調査會ノ如キモ
同様デアル、年限短縮ノ如キ重要ナ問題ニ就テ
ハ、十分價值アル調査材料ニ就テ、お互ニ誠意ア
ル研究ヲナスニアラザレバ満足ナル解決ハ難キ
コトト信ズ。

予ハ京都府立第一中學校、第二高等學校第三部、
京都醫科大學及ビ京都府立醫學專門學校ノ入學
者原簿ニ就テ自ラ最近數年間、詳言スレハ明治
四十三又ハ四十四年度乃至大正四年度ノ新入學
生ノ年齡ヲ調査シテ見タルモ、固ヨリ僅カニ一
局部ニ止マリ、是レヲ以テ一般ヲ論セントスル
ハ其ノ全ク無理ナルハ予モ十分了解スルモ、去
リテ數年間沒頭シテ其ノ研究ニ從事スル譯ニ
モ行カズ、今左ニ其ノ數表ヲ掲ゲ識者ノ一考ニ
供セントス。

第一表 京都府立第一中學校新入學生年齡表 (既往五年間合算)

年 齡	人 員
12-13	121
13-14	362
14-15	150
15-16	47
16-17	11
17-18	4
18-19	0
19-20	1
695	
平均年齡	
13.2	

第二表 第三高等學校第三部新入學生年齡表 (既往五年間合算)

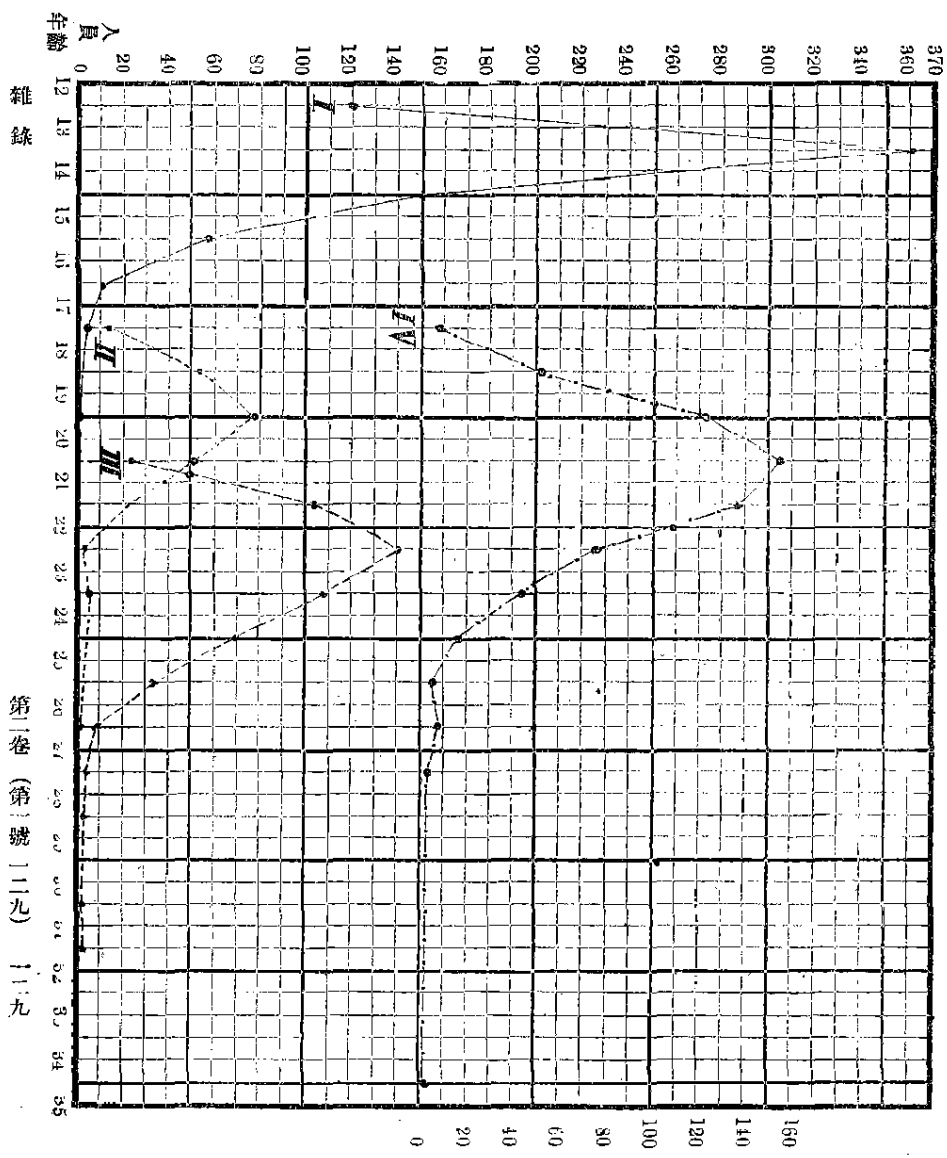
年 齡	人 員
17-18	14
18-19	54
19-20	77
20-21	53
21-22	22
22-23	4
23-24	6
24-25	0
25-26	0
26-27	1
229	
平均年齡	
19.3	

第三表 京都醫科大學新入學生年齡表 (既往六年間合算)

年 齡	人 員
20-21	24
21-22	104
22-23	141
23-24	107
24-25	69
25-26	34
26-27	10
27-28	4
28-29	3
29-30	2
30-31	1
31-32	1
500	
平均年齡	
22.7	

第四表 京都府立醫學專門學校新入學生年齡表 (既往六年間合算)

年 齡	人 員
17-18	8
18-19	51
19-20	122
20-21	154
21-22	137
22-23	76
23-24	43
24-25	16
25-26	6
26-27	9
27-28	3
28-31	1
626	
平均年齡	
20.6	



雜錄

今文部省ノ調査ニ據ルトキハ全國中學校入學者ノ平均年齡ハ十三年八月ナリト云フ、予ノ京都第一中學ニテ得タル既往五ヶ年合算ニ據ルトキハ平均年齡十三年二ヶ月ト大差ナシ、又年齡別ヲ以テスレバ、正當年齡ノ十二、十三歳ノ入學者ハ六百九十五人中四百八十三人アリ、殘餘ハ十四歳乃至十九歳ニシテ合計二百十二人アリ、後者ハ總テ一回、二回或ハ數回ノ落第者多數ヲ占ムト斷定シテ差支ナカラシ、從テ全數ノ三分ノ二ハ正當年齡ニ入學シ餘ノ三分ノ一ハ入學試験ノ爲メ多少年齡ヲ増シタルモノトス、而シテ中學入學者ノ年齡増加ハ延イテ將來ニ年齡ノ延長ヲ來タスノ原因ト認メザルベカラズ、又十二歳者ノ百二十一人ニ對シテ十三歳者ノ三百六十二人ヲ占ムルハ主トシテ出生上ノ關係ニ由ルモノナルカ。或ハ十三歳者中十二歳落第者ノ幾分混ジタル結果ニアラザルカ疑ナキ能ハズ。

爰ニ最モ趣味アル事實ハ文部省第四十一年報(大正二年調)ニ據レバ、東京及ビ廣島兩高等師範學校附屬中學校(入學無試験)ノ入學年齡ト他ノ

公私立中學校ノ入學年齡トノ比較ナリ、入學試験ノ有無ニヨリ入學年齡ニ及ボス影響如何ニ顯著ナルカハ前者ノ年齡ノうありあんどハ合集シテ二ニ止マルモ、後者ハ十二ニ離散スルニ由リ知ラル。

	最長	最少	平均
東京高師附屬中學校	一四・一	一二・一	一三・〇
廣島高師附屬中學校	一四・〇	一二・一	一三・一〇
公私立中學校	一二・二	一二・二	一二・七〇

第三高等學校第三部入學者ノ年齡(既往六年間合算)ヲ見ルニ、正當年齡十七歳十八歳ニシテ入學セルモノ二百二十九人中六十八人ニシテ約三分ノ一ニ相當シ、餘ハ十九乃至二十六歳ニシテ、内十九歳ノモノ七十七人、二十歳ノモノ五十二人ノ多數ヲ占ム、之レヲ中學校ノ正當年齡入學者數三分ノ二ニ比セバ、半減ス、中ニハ中學校ニテ落第セル者アリト雖モ、假之制規ノ年齡ニ卒業スルモ、高等學校入學ニ際シ蹉跌ヲ來シ、本來ハ三分ノ二ヲ占メタルモ、入學ノ際三分ノ一ニ減シタルモノト斷定スルヲ得ベシ、此ノ關門亦年齡延長ノ原因トナルヤ明白ナリ。

菊池氏ハ中學校卒業生ノ平均年齡ハ滿十九歲ニシテ、高等學校入學者ノ平均年齡ハ十九歲九ヶ月ニシテ、此間ニ餘マリ遲延ヲ見ズト云ハルモ、其ハ單ニ平均年齡ニ就テノ論ノミ、固ヨリ齡數分布ノ詳細ヲ知ル能ハズ、予ノ斷片の觀察ヲ以テセバ、中學校卒業者ノ大部分ハ十七乃至十八歲ナラザルベカラズ、又予ハ卒業者ノ年齡ハ別ニ必要トセザレバ調査セズ是レ略ボ入學年齡ヲ以テ推測シ得レバナリ而テ中學卒業者ノ落第數ハ約十乃至二十分ノ一ノ間ニアルベク中途事故退學ハ多クハ年長者ニアラン（半途退學及ビ死亡者ハ一八、二六％大正二年調査）高等學校入學平均年齡ハ予ノ場合ハ十九歲三ヶ月ニシテ略ボ同ジ

一ニ對シ大學ニテ四分ノ一ニ減ゼルハ其ノ原因ノ何ニアルカヲ知ルニ苦シム、畢竟大學ハ全高等學校ヨリ學生ヲ收容スルニ關セズ、予ノ調査ハ只第三高等學校第三部ニ就テ得タル數ト對比セルノ罪ナルカ、將メ又落第者ノ比較的多キニ因ルカ、又予ノ高等學校對中學校ノ比較モ同様ナル缺點アルヲ以テ今日ノ處ニテハ互ニ不正確ナル調査ニ據ルノ外ニ方法ナク洵ニ心細キ次第トス。

因ニ曰ク京大學生監ノ大正三年當大學入學學生中高等學校在學三年以上ノ者ノ調査（學友會誌第十一號ニ據ルトキハ法科二五％、醫科二％、工科一四％、文科七一％、理科四〇％ナリト云フ是レニ由リ觀レバ或ハ偶然ナリヤモ測ラザレド高等學校在學モ亦大イニ學修年限延長ノ原因トナルガ如シ。

京都醫學專門學校既往六年間ノ入學者年齡ヲ調査セルニ、十七歲十八歲ノ正當年齡ニテ入學セルモノ六百二十六人中僅カニ五十九人ニシテ、實ニ全人員ノ十分ノ一二足ラス是レ頗ル注目ヲ要スベキ事實トス、餘ハ十九歲乃至三十四歲ノ間ニアリ、是レ全ク入學試験ニ胚胎シ慘憺タルヲ免レズ、要スルニ中學校卒業者中ニハ初メハ

高等學校ニ赴キ後テ轉ジテ醫學專門學校ニ集マリ、其ノ間ニ歲月ヲ空費シ、又一方志望者ノ多數ナルノ結果ナランカ。

以上ヲ以テ觀ルニ學修ヲ了リ社會ヘ出ヅル年齡ノ遲延スルハ其ノ原因當ニ當該學校裡ニ於ケル課程ノ罪ノミニ歸スベカラズシテ、(高等學校在學中落第多キハ大イニ注意ヲ要ス)主ナル原因ハ入學試驗ノ制アルニ職由セズンバアルベカラズ、故ニ今若シ入學試驗ヲ現狀ノママニ存立セシムルトキハ、如何ニ學科程度ヲ減縮スルモ、學力低下ノ犧牲ノ外毫モ年限短縮ノ實効ヲ收ムルコト能ハザルハ、敢テ識者ヲ待タズシテ明ラカナリ。是レ又大學年限短縮論者ノ猛省スベキモノトス。